



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:マダラクワガタ

学名: *Aesalus asiaticus*

クワガタムシというと、ミヤマクワガタ・ノコギリクワガタ、ヒラタクワガタ、オオクワガタが人気でしょう。どれも大型で、雄の大顎も立派で見栄えがします。コクワガタやスジクワガタも小型ながら、大型の雄なら、大顎も発達しクワガタらしいクワガタムシです。ところが、普通のクワガタのイメージからかけ離れたクワガタムシもいます。それが今回紹介するマダラクワガタです。

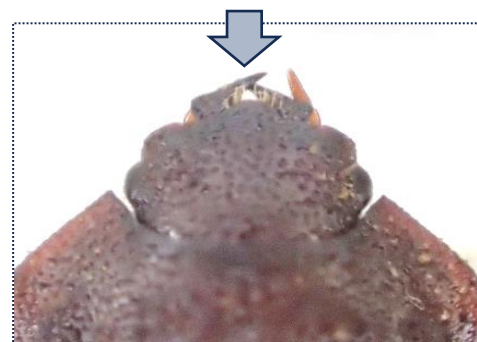
マダラクワガタは、体長5mmほどで、日本一小さいクワガタです。これでも立派なクワガタです。他のクワガタと違って体高が高く、楕円形の体型で、短い毛に覆われています。雄は小さいけれど大顎がついています。名前の「マダラ」は、上翅にある

毛の束をまだら模様とみたものです。下の写真はメスの大顎ですが、矢印の部分が大顎で、よく見ないとわかりません。

やや標高の高い山の中で、赤く朽ちた木の中にいます。樹液には来ないので、なじみのないクワガタです。おまけにこの大きさと体型なので、朽ち木の表面に止まっていたとしても、ほぼ気づかれることはありません。博物館にも、標本は1頭しかありませんでした。

朽ち木の中では、幼虫から成虫まで何頭もが一緒に生活しているようです。幼虫は朽ち木を食べて成長しますが、成虫になると何を食べているのかわかっていません。水だけでしばらく飼育できたという情報もあります。

オオクワガタは、成虫が飼育下で最長7年生きたそうですが、マダラクワガタがどれくらい生きるのかよくわかっていません。



【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

